

M16b **DSCOVR からのリアルタイム太陽風データ受信について**

亘 慎一, 久保勇樹, 石井 守 (情報通信研究機構)

太陽風の直接観測データは、CME など太陽活動に伴う太陽風の乱れが地球の磁気圏や電離圏などに与える影響を予測する際の重要なデータである。現在、1997年8月に打ち上げられたNASAのACE (Advanced Composition Explorer) がラグランジュ点 (L1) で連続的な太陽風観測を行っており、情報通信研究機構ではACEからのリアルタイム太陽風データの受信を行っている。しかし、ACEは打ち上げから15年以上経過して機器の老朽化が進んでおり、その後継機として2014年11月にDSCOVR(Deep Space Climate Observatory)の打ち上げが予定されている。DSCOVRの主な目的は、ACE後継機としてL1点で太陽風の直接観測を連続的に行い、宇宙天気のために太陽風のリアルタイムデータを提供することであるが、L1点からのカメラ等によるオゾン、エアロゾル、雲、植生、UV、IRなどの地球観測も予定している。情報通信研究機構では、DSCOVRからのリアルタイム太陽風データの受信を行うため、現在、準備を進めている。本講演では、DSCOVRの緒元および情報通信研究機構でのDSCOVRからのリアルタイム太陽風データ受信について報告を行う。